

いわて防災学教室

災害から学び、災害に備える



防災力強化に向けた災害図上訓練のススメ(その1)

岩手大学地域防災研究センター特任助教

柳川 竜一

災害図上訓練とは、紙面上(もしくは地図を広げられる程度のスペース)にて災害発生による被害想定や対処を行う訓練手法の一つである。地図などの大判用紙を広げるスペースと情報が記載された用紙、用紙に記入するマーカーやシール等の文具一式、そしてアイデア(これが最も重要!)があれば様々な災害を想定した訓練プログラムを作成・体験し防災力強化を図ることが出来るため、実働訓練・実技訓練よりも人的・費用的な面でメリットが大きい。例えば、町内会役員が主体となる自主防災組織のメンバーは、基本的に防災のエキスパートという訳ではない。従って効果的に自主防災力を高める活動は重要となるが、手軽さ・奥深さといった点から災害図上訓練はそれを満足する一つの手段として有効と考えられる。

下の図は、地域防災研究センター教授である越野が示した、代表的な災害図上訓練の種類とその特徴について整理したものである。今回は、岩手大学にて実施されているこれら図上訓練の大まかな内容について紹介したい。

イメージトレーニングは最も簡便な手法で、付与された簡単な災害想定に対し予測される事象や参加者自らが取るべき意思決定、役割行動を紙面に記載する。参加者は主体的に物事を考える事ができるとともに、内容を参加者間で議論することで防災上の課題を容易に把握することができる。

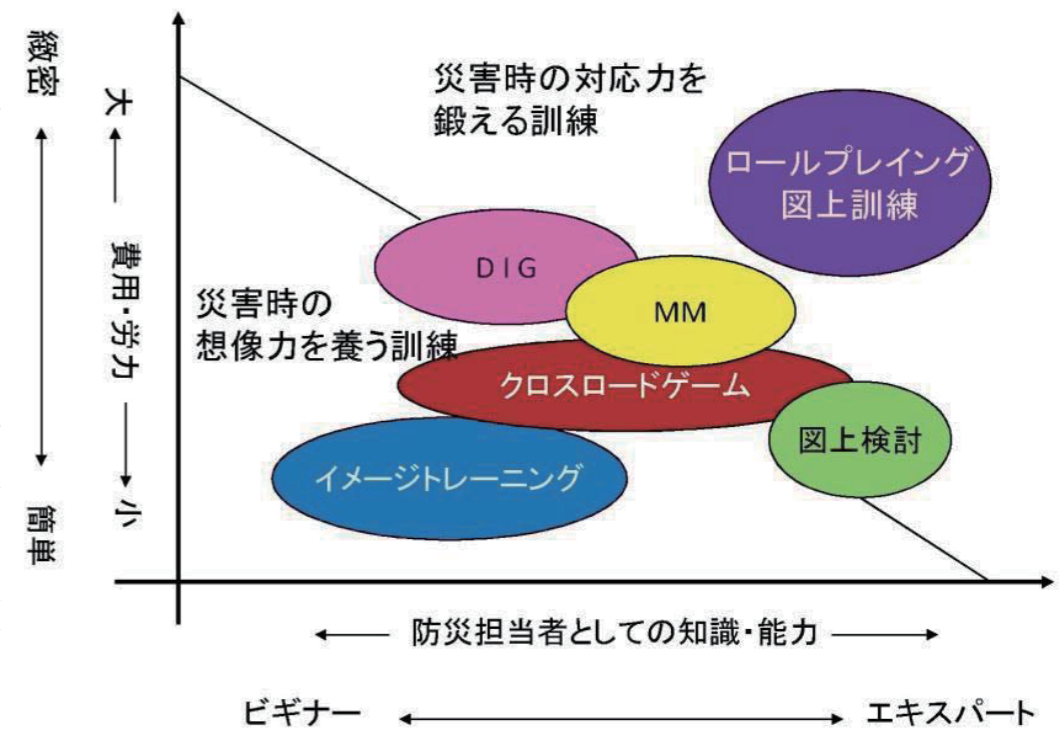
クロスロードゲームは、提示された災害時のある決断すべき状況

に対し決心を求める(二者択一)とともに、参加者間での決心に至る考えや悩みなどを話し合うことで、多様な視点・価値観を認識することができる。

DIG(災害想像力ゲーム)は、地図上に主要道路・地方道路・鉄道線路・海城・河川・住宅地・農地・多目的利用平地・公共施設・安全が確保できる場所・危険な場所など様々な情報を書き込み、地域の特徴や危険等の課題を把握する事ができる。自治体が公表している土砂崩れ・土石流・洪水・火山・津波等のハザードマップを用いた災害想定を加えることで具体的な対策を考えることができるため、参加者のスキルに応じて内容をステップアップすることも容易である。

今回は、災害時の対応力を鍛える訓練である図上検討・MM・ロールプレイングについて引き続き紹介する。

図上訓練の種類と特徴



図出典：防災・危機管理エキスパート育成講座，訓練マネジメント(講師:越野修三)より